学 級 活 動 指 導 案

日　時　平成２９年５月２６日第２校時
対　象　１年１組（男子21名　女子20名　計41名）
指導者　教　諭　　入　江　　将　紀

１　題材　「一人一人が居心地のよい学級を創ろう」

２　学習指導要領との関連

内容項目：(2)　日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
　　ア　自他の個性の理解と尊重，よりよい人間関係の形成

３　題材（テーマ）設定の理由

情報社会の現代，人と人とのつながりはより複雑なものとなっている。個の考えや意志を尊重する風潮の中，家庭や地域社会等，身近なところにあるコミュニティでの他者との関係は希薄化が進み，表面的なコミュニケーションとなる傾向にある。また，情報通信機器を介した他者とのコミュニケーションはより広範囲に渡るようになり，これまでは関わることのできなかった遠方の人や，不特定多数の人と，互いの考えをやりとりすることを可能にしている。

このような環境の中，新たな人間関係づくりに楽しみを見いだしたり，生き甲斐を感じたりする人々がいる一方で，目の前の他者との直接的な人間関係づくりの経験やスキルの不足により，適確なコミュニケーションによって望ましい人間関係を築いたり，維持したりすることができないことに不安を感じる人々も多い。特に中学生の時期は，精神的に未成熟であり，自他の相違点に寛容になったり，相手の思いや考えを推測し，自分の思いや考えを適確に表現したりすることを苦手とする傾向にある。そのため，異なる小学校から入学した級友と人間関係を構築することに難しさを抱える生徒や，人間関係のトラブルを抱える生徒，望ましい人間関係を築けずに孤立してしまう生徒もいる。さらには，情報通信機器を介したSNS等での友人間トラブルにもつながることも予想される。

そこで本題材では，生徒にとって身近であり，生活に欠くことのできない学級での人間関係づくりに焦点を当て，他者とのよりよい関わり方や，過ごしやすい環境づくりの重要性を認識させたい。そして，その実践への技能を高めさせ，態度を育みたい。

これまでも生徒たちは，学級目標達成のために特別活動を通して，望ましい人間関係とはどのようなもので，そのために必要な態度はどのようなものかを学んできている。しかしながら，学級の実態を見ると，自己の考えを上手に主張できず，自分本位な考え方や，一時的な感情を基にした発言や態度から，他者との関係を悪化させる場面がある。そこで，実際に起こっている好ましくないと考えられるやりとりについて，「システム思考」を踏まえた「氷山モデル」を基にして，その問題点を具体的に考えさせていく。そうすることで，どのように他者とよりよくコミュニケーションをとるべきなのかを，構造的に捉えさせ，根本的な問題解決を図らせたい。さらに，自己と他者双方の思いを大切にした行動の仕方や生き方について，体験的に学ばせ，よりよい学級の生活づくりに繋げていきたい。

このように，実際に学級で行われているようなやりとりの問題を，「システム」として捉え，他者

とのよりよい人間関係について振り返らせ，実践を伴った創造的な学びを展開したいと考え，「一人一人が居心地のよい学級を創ろう」というテーマを設定した。

4　題材（テーマ）における指導目標

(1)　問題解決の方法に関心をもち，解決方法を意欲的に追究し，相互理解しようとする態度を養う。

(2)　問題解決の方法を多様に考え，相互理解に必要なものは何かを判断し，それを実践することができるようにする。

(3)　人間関係の問題を解決するには，問題を明らかにし，多くの解決方法を考え，結果を予想し，最もよい方法を決定し，実行することが大切であることを理解することができるようにする。

5　評価の視点と本実践における評価規準

生活や人間関係をよりよくするための知識・技能	集団の一員としての話合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
充実した集団生活を築くことの意義や，学級や学校の生活づくりへの参画の仕方，意見をまとめる方法などについて理解している。	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し，他の生徒の意見を尊重しながら，集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え，判断し，自己の意思を表現している。	学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち，他の生徒と協力して，自主的，実践的によりよい集団生活に取り組もうとしている。

6　ＩＣＥモデルを用いたルーブリック

	Ｉを達成している段階	Ｃを達成している段階	Ｅを達成している段階
創造的に考えようとする力や考えようとする態度	アサーティブな表現や課題を知り，話合いの意義を見いだし，相手の立場から意見を述べる段階。	課題を時間による変化やよりよい人間関係の構造から捉えた上で，より最適なアサーティブな表現を行う段階。	生徒会活動や学校行事等の時間や放課後等，日常の場面でアサーティブな表現をしている段階。

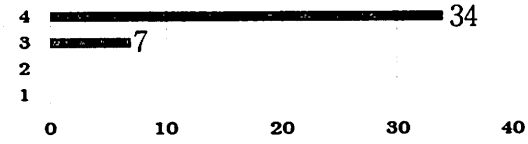
7　生徒の実態

【アンケート結果】（平成29年４月11日実施　対象：１年１組　41名）

※　４肯定的　３やや肯定的　２やや否定的　１否定的
小学校の頃を思い出して答えなさい。

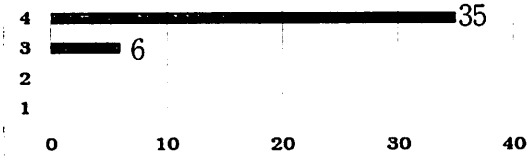
問１　学校には，気軽に話せる友だちがいた。

問２　学級の中にいると，明るく楽しい気持ちになった。

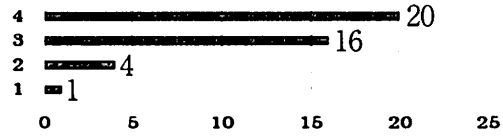


問３　学級には，気軽に会話ができたり，遊びに誘ってくれる友だちがいた。

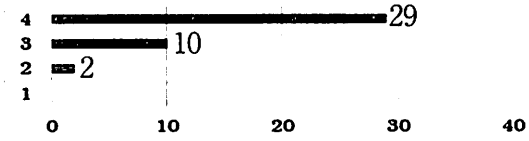
問４　学級のみんなと一緒に学校行事に参加したり，活動することは楽しかった。



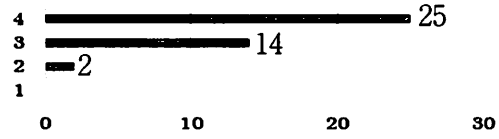
問５　学校には，自分の悩みや本当の気持ちを話せる友だちがいた。



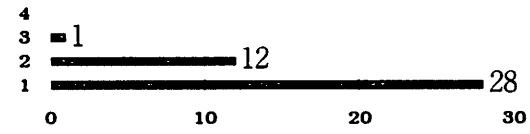
問６　自分が困っているときに助けてくれたり，協力してくれたりする友だちがいた。



問７　学級は，目標やルールが大切にされていたので，安心して居心地よく過ごせた。



問８　友だちから悪口を言われたり，無視をされたりしてつらい思いをすることがあった。



問９　現在の学級をこれからどんな学級にしたいですか。
・明るい学級　・思いやりのある学級　・つながりのある学級　・誰とでも話せる学級　・楽しい学級　・メリハリがある学級
・喜怒哀楽を分かち合う学級　・個性あふれる学級　・目標に向けて頑張る学級　・見通しをもった行動ができる学級
・笑顔溢れる学級　・いじめのない学級　・団結した学級　・居心地のよい学級　・互いに注意し合える学級　など

問10　次の状況を想像して，問いに答えなさい。

掃除の時間です。あなたを含めたメンバーで，教室の床のぞうきんがけをしています。
ところが，２人の生徒がずっとおしゃべりをしていて，作業に参加していません。

(1)　この状況をあなたはどう思いますか。
・他の人は掃除をしているのだから，きちんと掃除をしてほしい。　・他の人にとって迷惑だ。
・そのままでは掃除が終わらないので，喋らずに掃除してほしい。　・掃除に関係のない話はしないでほしい。
・掃除への意識を高めてほしい。　・腹立たしいが，気には留めない。
・掃除に関する話なら仕方ないが，なるべく掃除を進めてほしい。　など

(2)　あなたはおしゃべりをしている二人に何か声を掛けることができますか。
できる・・・30名　　できない・・・11名

(3)　(2)で「できる」と答えた人に聞きます。声を掛けるとすれば，何と声を掛けますか。
・掃除の時間と休み時間を区別して，掃除をしよう。　・みんな頑張っているのだから掃除しようよ。
・無言作業だよ，掃除しないといけないよ。　・掃除に集中しないと迷惑だよ。
・真面目に取り組んでくれないかな。　・何の話をしているの？掃除中だよ。
・掃除をしていないのは君たちだけ。周りのことも考えてよ。　・もう掃除の時間だよ。みんなで掃除をしよう。
・何の話をしているの？（もし掃除に関係のない話なら）今は掃除時間だから掃除をしよう。　など

【考察】

本学級の生徒は，落ち着いた態度で物事に取り組む生徒が多く，教師の話に真剣に聞き入る様子が見られる。また，入学当初から交友関係を広げたいと積極的に級友と関わり，出身小学校の垣根を越えて接していこうという意欲が，生活記録の記述や行動観察からうかがえる。さらに，生徒会活動の一人一役や今後の役割等に関する調査では，多くの生徒が応援団員や宿泊学習の実行委員等に意欲を示しており，自己を発揮し，学級や学年集団の向上に貢献したいと考えていることが分かる。

アンケート結果によると，**問１～４**においては，すべての生徒が小学校での学校生活や行事が楽しかったと回答しており，交友関係も概ね良好な関係を築いていたことが分かる。また，**問７**は40名（98%）の生徒が規律あるクラスで安心して過ごせたと答えている。一方で，**問５**では，５名（12%）の生徒が自分の悩みや本当の気持ちを話せる友だちがいなかったと回答している。

このことから，学級に規律があり，充実した活動を行うことができていながらも，個々の相互理解には至っていない場合があり，すべての生徒が自己有用感をもつことができているわけではないことが分かる。つまり，集団における規律という全体的な視野だけでなく，個々の内面に沿った理解を促すことで，個々の伸長に繋がり，より充実した学級活動が実現すると考える。

問９から，中学校生活に関しては，「明るく」，「メリハリのある」，「個性が大切にされる」学級をめざしたいと考える生徒が多く，学級には規律を守ることや個性を発揮することがよりよい学級づくりに必要であると考えていることが分かる。このことから，年度当初より学級のルールづくりや個々の相互理解等を学びのプロセスを踏まえて，積極的に行うことが必要だと考える。

さらに，**問10**にある場面設定において，２名（５%）の生徒は「何か話をしなければいけない理由があるのかもしれない」と考え，相手を慮る表現をしている。一方，39名（95%）の生徒が「掃除中だから」，「周りに迷惑だから」と注意し，無言作業や掃除への真剣な取組を促す発言をしている。

これらのことから，生徒は，個々の相互理解を基に学級の向上をめざす意義を感じる一方で，実際には，相手の気持ちやその行動の原因を意識しないまま，自分の意見を伝えるのみになっていることが多いと考えられる。よって，本題材では，相手を慮る表現方法や思考のプロセス等について学ばせることで，よりよい学級集団づくりに繋げたいと考える。

8　展開の過程（※は研究の重点に対応している）

(1) 事前の指導と生徒の活動

期日	活動の場	活動内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿
4月11日	学級活動① 全員	事前アンケート 「人間関係に関するアンケート」に回答する。	小学校での学校生活を想起させ，理想の学級像を考えさせる。また，学級目標を達成するためにも，今の自分の思いを真剣に考えさせる。	学級での生活に関わる自分の思いや様子を真剣に振り返っている。
		課題の把握 これからの自分たちの学級を想像し，学級のあるべき姿について確認する。	出された意見を「人の心に関すること」「ルールに関すること」「学習に関すること」等に分類し，現状を確認しやすくさせる。	入学時からの学級の様子を振り返り，自分の気付きやこれから取り組むべきことについて，発表し合っている。
4月17日	放課後 学級運営委員	アンケートを集計する。	アンケートの集計を行い，クラスの実態を把握させる。	アンケート結果からクラスの実態を把握することで，学級の問題について理解し，それを解決しようとする意欲がある。
5月11日	学級活動②	学級の現状の把握 学級の目指すべき姿と現状とを比較する。	学級目標に基づき，学級のめざすべき姿や現状を把握させる。	学級目標を達成している学級についてイメージを膨らませながら，意見を出している。
		目標設定 附中生活確立週間について振り返り，学級としての課題を把握する。	附中生活確立週間時の係の活動や，係以外の生徒の立場や様子に着目しながら振り返らせ，それぞれの立場間にあるコミュニケーションの難しさに気付かせる。	現在の学級の様子を真剣に見つめ，更によくするために真剣に考えている。
		知識・技能の習得 アサーションについて理解する。	現状に基づき，基本的なアサーティブな表現方法（DESC法）について学ばせ，実践させる。	よりよい人間関係にするために，アサーションスキルについて理解し実践しようとしている。
5月18日	帰りの会 全員	事前アンケート 「確立週間に関するアンケート」に回答する。	確立週間中の姿を想起させ，理想の学級と現状について，今の自分の思いを基に，真剣に考えさせる。	学級での生活に関わる自分の思いや様子を真剣に振り返っている。
	放課後 学級運営委員	アンケートを集計する。	アンケートの集計を行わせ，クラスの実態を把握させる。	アンケート結果からクラスの実態を把握することで，学級の問題について理解し，それを解決しようとする意欲がある。

(2) 本時の指導と生徒の活動

ア　題材　「どのようにしたら友だちの気持ちや考え方に気付いてコミュニケーションをとることができるだろうか」

イ　本時のねらい

○　ロールプレイや意見交流を通して，システム思考に基づいた話合い活動を行い，他者をよりよく理解しながら自己を表現できるようにする。

ウ　展開

過程	活動の内容	指導上の留意点	めざす生徒の姿
活動の開始 10分	1　社会とのつながりを知る。（全体）	・　与えられた資料や学級の現状等から「人間関係」や「コミュニケーション」の重要性，また，コミュニケーションの際における他者理解の重要性について把握させる。 【※Ⅱ－1(2)】	
	2　アンケートの結果から，学級の現状と社会の実態とを比較する。（全体）	・　生徒個々にこれまでの学校生活の様子や理想とする学級像を確認させ，意欲をもって学級や自己の課題解決に臨ませる。 ・　学級のあるべき姿を意識させ，その達成を阻む問題について考えさせ，学級や自己に関する課題を発見・確認させる。 どうしたら互いに理解し合い，コミュニケーションをとることができるだろう。	◎　本時の話合いの意義を理解し，課題を見いだしている。
	3　学習課題を設定する。（全体）		
	どのようにしたら友だちの気持ちや考え方に気付いてコミュニケーションをとることができるだろうか		
	4　自己課題を設定する。（個）	・　生徒自身の課題を見いださせて，ワークシートに記入させる。	
活動の展開 35分	5　ロールプレイを体験する。（ペア・グループ） ①　シナリオを使い，ロールプレイを行う。	・　自分の課題として考えさせるために，ロールプレイのシナリオは身近な学校生活から取り上げる。	◎　本時の話合いの意義を理解し，進んで活動しようとしている。
	②　ロールプレイを体験して，感じたことを発表する。	・　生徒にシステム思考を基に考えることで他者をよりよく理解できることを予想させる。 ・アサーティブな表現ができている。 ・相手の立場を考えながら話している。 ・起こった出来事について，その原因をよく理解しようとしている。	
	6　ロールプレイで登場した人物について，どのような問題があるか，氷山モデルを用いてグループごとに話し合う。（グループ）	・　ワークシートを用いて，問題をシステム的に捉えさせ，ループ図をもとに話合いを行わせる。 【※Ⅱ－2(2)】	◎　他の生徒の意見を尊重しながら，考えている。
	7　氷山モデルを活用して，もう一度，同じ題材でロールプレイを行う。（ペア・グループ）	・　実際の表現や行動からは気付きにくいことにもシステム思考を基に気付いた上で，自分と相手の気持ちを大事にしながらコミュニケーションをとることの重要性に気付かせる。	◎　他者理解の重要性に気付いている。
	8　実際に起こりうる場面において，ペアでロールプレイを行い，その内容や活動中に意識したことなどについてグループで確認する。（ペア・グループ・全体）	・　学級で起こりうる問題を含む場面について，システム思考に基づきロールプレイさせる。	◎　システム思考に基づき，自分と相手の気持ちを大事にしたやりとりができている。
活動のまとめ 5分	9　学んだことを振り返り，実践に向けての意欲についてワークシートに記入する。（個）	・　実際に起こっていることの背景で最も大切なものは何かを考えさせ，ワークシートに記入させる。 【※Ⅱ－2(3)】	◎　意欲的に実践しようとしている。
	10　今後の学校生活の中で実践したいことについて発表する。（個・全体）	・　自己課題を振り返らせながら，実践する内容を発表させる。	
	11　おわりの言葉		

(3)　事後の活動と生徒の活動

期日	活動の場	指導上の留意点	めざす生徒の姿
随時	各学級	本時の学びを実践させ，生活記録に振り返りをさせる。	実践して，その有用性を実感し人間関係を築こうとしている。
随時	各学級	活動の過程を振り返り，評価シートの記入を行わせる。	成果と課題を具体的に記入し，次の活動に生かしている。